大学生の災害支援ボランティア活動参加要因に関する分析
Analysis on Factors Related to Participation for Volunteer Activities of College Students to Assist Disaster Affected Areas

馬場 美智子[1]，渡辺眞優[2]
Michiko BAMBA[1] and Mayu WATANABE[2]

[1] 兵庫県立大学防災教育センター
Education Center for Disaster Reduction, University of Hyogo
[2] 兵庫県立大学環境人間学部
School of Human Science and Environment, University of Hyogo.

Volunteer activities of college students are expected to become the huge strength for the recovery of affected areas damaged by catastrophic disaster, such as the Great East Japan Earthquake and Tsunami. The purpose of the study is to find out what elements contribute to promote participation of college students in volunteer activities for disaster assistance. In this paper, the development of behavior model to analyze factors related to behaviors to participate in volunteer activites for disaster assistance is discussed focusing on influences and roles of environmental elements, education, information and opportunity related to disaster assistance and volunteer.

Keywords : Volunteer, Disaster assistance, College students, Reasoned action, , Belief, Intention, Attitude, Behavior

１．はじめに

東日本大震災から 3 年が経過し、現地で活動するボランティアが減ってきていることが懸念されている。各市町村社会福祉協議会に設置された災害ボランティアセンターを通してボランティアに参加した人数の推移をみると（図-1）、平成 23 年の春から夏にピークを迎え、その後は平成 24 年の半分以下になり、減少傾向にある。大学生のボランティア参加も、これと同様の傾向にあろう。

災害後の復旧・復興過程において、大学生ボランティアへの期待は大きい。東日本大震災では、多くの大学生が被災地で活動を行い、高いリーダーシップを発揮した学生も多い。しかし、東日本大震災発生から時間経過とともに、大学生ボランティア数も少なくなる状況の中、東日本大震災の復興には、まだまだ大学生の活力が必要であり、より多くの大学生が継続的にボランティア活動に参加することが期待される。

大学生にとっては、ボランティア活動を通して社会に貢献するとともに、自己成長の貴重な機会となることから、ボランティアに参加する意義がある。しかしながら、大学生のボランティア参加が思ったより進まない背景には、交通費や宿泊費の負担、時間的な問題、学業やアルバイトとの調整などの理由があると考えられる。そこで、大学生のボランティアへの参加を促す要因を明らかにすることを目的として、要因分析を行う事とした。本稿では、要因分析における仮説として構築した災害支援ボランティア活動参加意思モデルを示し考察を加える。

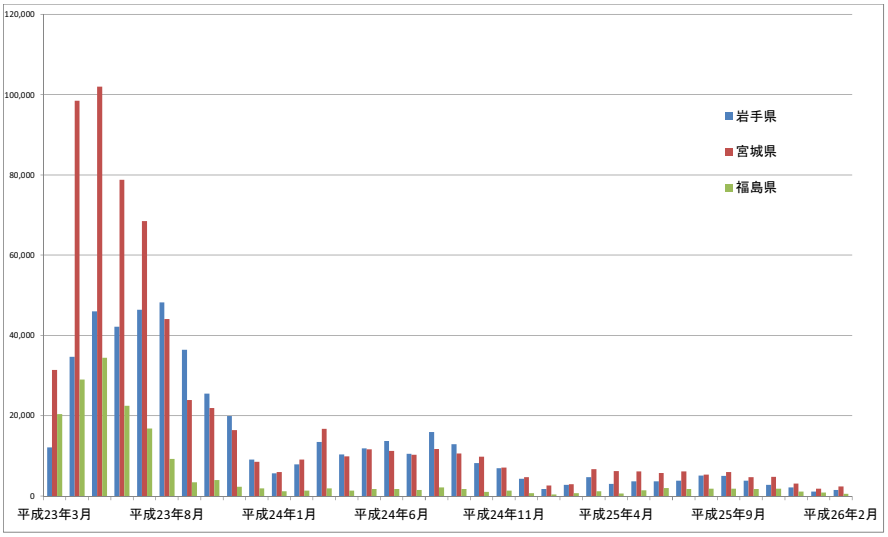

図-1　東日本大震災ボランティア数（出典：全国社会福祉協議会データ [1)] を元に筆者作成）

２．大学生のボランティア参加の障害となる要因

東日本大震災被災地における大学生のボランティア活動が減少傾向にある理由として、主に次の三つが考えられる。まず一つ目は、被災地に行く旅費などの経済的負担と授業やアルバイトとのやりくりという時間的な負担である[(1)]。二つ目の原因として、発生から時間の経過とともに関心が薄れてきたことが挙げられる。三つ目として、瓦礫処理等の知識やスキルを必要としない作業が少なくなり、多少の専門的性を必要とする活動が多くなってきていることである。

一つ目の交通費や宿泊費等の経済的な問題については、政府・自治体・企業・大学が支援して、大学生がボランティア活動をし易い環境を整えることが必要であろう。大学や研究機関の役割は、二つ目と三つ目の原因に関連して果たす所が大きい。学生たちの被災地への関心を高

めるためには、防災教育や、ボランティア精神を育む教育が必要であろう。また、被災地ボランティア活動が自己成長の機会となったと同時に、「自分の能力面で困難を感じた」とする大学生の意見も多く[2]、自信喪失や限界を感じ、ボランティアを続ける意欲が削がれる事も懸念される。そこで、深い知識や専門性がなくても大学生として出来る事をボランティア活動として具現化するための支援をしたり、そのための能力やスキルを身に着けさせたりするような教育を行うことも、自発的な行動力を育てる上で重要である。

本研究では、環境、社会、教育、情報等がボランティア参加に影響を与える要因に着目し、大学生のボランティア活動への参加行動のメカニズムを分析する。

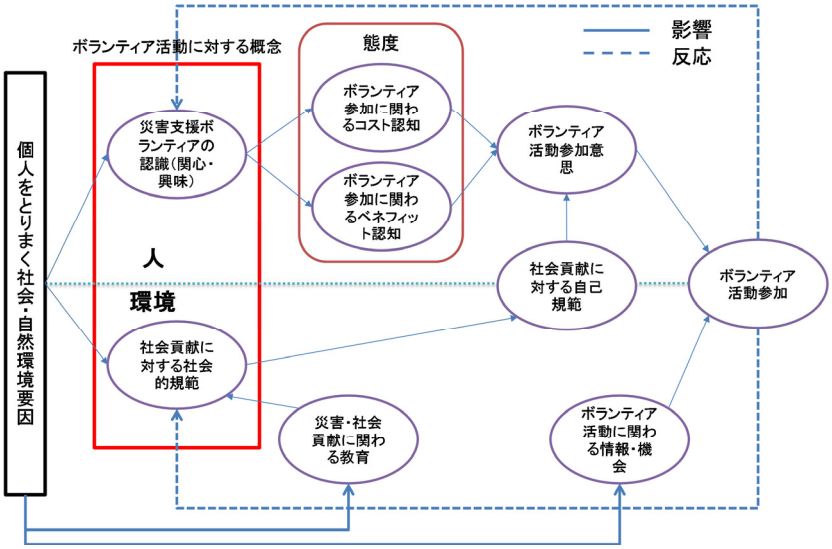

図-2　災害支援ボランティア活動参加意思モデル

３．災害支援ボランティア活動参加意思モデル

本研究では、Fishbein & Ajzen[3]の合理的行為理論モデルに基づいて、災害支援ボランティア活動参加意思モデルを構築し、それを仮説として分析を行うこととした。合理的行為理論モデルは、社会心理学の期待-価値理論に依拠するものであるが、マーケティング分野で消費者の購買行動の背後にある態度形成モデルとして活用されてきた。防災に関わる行動要因の分析などにも応用されており、本吉他（2004）[4]は、地域防災活動への参加意図を規定する要因分析に、Tatsuki et al.（2003）[5]は、地域の防災対策への取組みに関わる要因分析に用いている。

(1) 災害支援ボランティア活動参加に関わる要因

災害支援ボランティア活動への参加に関わる要因は、個人に関わる要因と、個人を取り巻く環境に関わる要因に分類する。それぞれの要因を以下に示す。

■個人に関わる要因
- ・災害支援ボランティアへの関心
- ・ボランティアに対する自己規範：自分もボランティア活動に参加すべきだ
- ・ボランティアに対する態度（コスト・ベネフィット認知）：ボランティア活動は自分にとって価値がある（ない）・
- ・ボランティア活動参加に対する意思：ボランティア活動に参加するつもりである
- ・ボランティアへの参加行動

■環境に関わる要因
- ・個人が住むまちの災害リスク
- ・災害・社会貢献に関わる教育機会：コミュニティ活動、学生団体等の活動
- ・災害やボランティアに対する社会的規範：社会的にボランティア活動は大事である
- ・ボランティア活動に関わる情報や参加機会

(2) 災害支援ボランティア活動参加意思モデルの構築

Ajzen & Fishbein の合理的行為理論モデルにおいて、行動は、社会・自己規範、態度、意思によって形成され、環境による影響を受けるとされる（1975）[3]。ボランティア活動への参加行動に置き換えると、ボランティアに関わる社会規範は個人を取り巻く環境やコミュニティ、個人が受ける防災や社会貢献に関わる教育等により形成され、自己規範に影響を与える。自己規範はボランティア活動に参加する意思に影響を与える。環境要因は個人的のボランティア活動への関心や興味にも影響を与え、ボランティア参加への態度及び意思を形成し、自己規範との関わりの下、ボランティア参加行動へと導かれる。ボランティア参加への態度はボランティア参加によって得られるメリットとデメリットを認知して態度として形成されるものと仮定する[4]。また、ボランティア活動に参加するかどうかを規定する意思や自己規範は、ボランティア活動に関わる情報や参加機会などに何らかの影響を受けるものと仮定する。

(3)分析の視点

本モデルによる分析の主な視点は、①（より多く）ボランティア活動に参加する人としない人の違いは何か、②何が行動に影響を及ぼすのか、の2点である。①は規範-態度-意思-行動のメカニズムについて、②は個人が属する地域特性や活動と大学やＮＰＯの防災教育やボランティアプログラムの役割に着目し、分析を行う。

４．おわりに

本項では、災害支援ボランティア活動参加意思決定モデル構築の考え方を示した。今後、構築したモデルを仮説として、大学生の災害支援ボランティア活動への参加意思に関わる分析し、どうすれば大学生ボランティアの参加につながらうかを明らかにするために、データ収集のためのアンケート調査を実施する予定である。

【脚注】

(1)学生へのヒアリングによる。

【参考文献】

1)全国社会福祉協議会 HP(http://www.saigaivc.com/ボランティア活動者数の推移/, 2014.4.7)

2) 一般社団法人公立大学協会東日本大震災復興学生ボランティア等に関する作業部会：東日本大震災復興学生ボランティア「大学生の参加経験に関するアンケート調査」,2012

3)Fishbein, M., & Ajzen, I., Belief, Attitude, Intention, and Behavior: An Introduction to Theory and Research. Reading, MA: Addison-Wesley, 1975

4)元吉忠寛・高尾堅司・池田三郎 2004 地域防災活動へ. の参加意図を規定する要因 一水害被災地域におけ. る検討- 心理学研究, 75, 72-77

5) Tatsuki, S., H. Hayashi, D.B.Zoleta-Nantes, M. Banba, K. Hasegawa, and K. Tamura: The Impact of Risk Perception, Disaster Schema, Resources, Intention, Attitude, and Norms upon Risk Aversive Behavior among Marikina City Residents: Structural Equation Modeling with Latent Variables, Proceedings of Asia Conference on Earthquake Engineering, 2004